

出雲ブランド化推進市民委員会〔自然・環境グループ〕
第3回 現地取材メモ 活動記録
フォトヴォイスプロジェクト田儀編

日 時： 平成24年(2012)1月19日(木)
13:00～16:00

場 所： 田儀地区(多伎地域)
...田儀櫻井家製鉄遺跡、
榎が壺、多伎藝神社

参加者： 市民委員6名、案内3名、
事務局1名 計9名

記 録： 吾郷 誠(自然環境グループ・サブリーダー)



田儀櫻井家たたら製鉄遺跡の説明を聞く。

フォトヴォイスプロジェクト第3弾は、一年でもっとも寒い大寒の時期に、田儀を訪れました。当日は寒の雨が降る中ではありますが、人間が自然と関わった痕跡をたどることができました。

まず訪れた場所は、国指定史跡・田儀櫻井家たたら製鉄遺跡。これまでの保存運動の経緯や製鉄の歴史を田儀の皆様に向いました。奥田儀・宮本を中心に栄えた田儀櫻井家は、江戸～明治にかけて、出雲西部地域の一大産業として、「たたら場」を営しました。たたら製鉄は松江藩の庇護のもとに良港・田儀の港を利用した神門郡の大工業として発展し、同時に開拓事業においても田畑の開墾、道路の開削など大きな足跡を残しました。

こうした歴史が、遺跡に残る石一つにまで刻まれていることを実感しながら、写真を撮り言葉を集めていきました。

遺跡の中には、製鉄に従事した人々が暮らした住居跡や田儀櫻井家本宅跡、たたら製鉄の神様・金屋子神(かなやごしん)を祀る金屋子神社や櫻井家代々の墓地が隣接する智光院などがコンパクトに残されています。中心には宮本川が流れ、山塊に囲まれた自然の中で250年続いた人間の営みに思いを馳せることができました。

続いて訪れた場所は、奥田儀の川西の田の中に一本の榎の木が立っている「榎が壺」というところ。この場所には、ひとつの物語が残されています。

「むかし、一人の僧が川西を訪れ水を乞うたところ、この土地の人々は心よく水を与えた。

よく聞くと、このあたりは水の乏しいところのようだが、それなのによく恵んでくれたと感謝した僧は、水が出るように祈願し、数日間祈ると水が湧き出した。川西では旅の僧の徳を慕い、そこへ榎の木を植え、塚を築いてまつた。」という伝承です。ひとつの木にひとつの物語がある...、自然と人間の深いかかわりが感じられる物語の伝承地でした。



「榎が壺」にて、榎の木の下で。

最後に出雲国風土記にも記述されている多伎藝(たきき)神社に寄り、田儀を一巡りしました。「自然と人間のかかわり」という目線を出雲を眺めると新しい出雲が見えてきます。「神話」や「神様」といった既存の出雲イメージも、「自然」という視点からもう一度見直すと、よりわかりやすく身近なものとして実感できるように思いました。

フォトヴォイス (サンプル)

集めた言葉 栄枯盛衰 / ひとつの石に、ひとつの歴史。 /
大きな木、大きな歴史。 / きれいな水の植物 /
榎の木の伝説 / やさしい田儀の人の話 /
製鉄の歴史 / 氏神様を祭る神社 /
鉄の神様・金屋子神 ...etc

